

広報 EBETSU えべつ

あなたとまちをつなぐ

目次

- 2 新年のごあいさつ
- 4 特集 再生の道程
- 14 はじまります! 税の申告受付
- 28 【暮らしナビ】消費生活相談Q&A ほか
- 30 【健康だより】健康づくり教室 ほか
- 31 新型コロナウイルス感染症最新情報

2021

1

vol.975



／ おうちで ／

テイクアウト



地域おこし協力隊の前田隊員、丹治隊員が、市内飲食店のテイクアウト（お持ち帰り）情報を発信しています。初めて行く店や、大好きな店の料理を自宅でゆっくり味わえるチャンス！

ぜひ利用してみませんか。
詳細は地域おこし協力隊インスタグラムまたは市役所や公民館で配布しているチラシを参照ください。



▲ Instagram



▲ 配布中のチラシ



江別市長
三好 昇

Miyoshi
Noboru



江別市議会議員
角田 一

Tsunoda
Hajime

新年あけましておめでとう
ございます。

市民の皆さまには、日頃から市政各般に深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年、2月からの新型コロナウイルスの感染拡大により、地域イベントや行事が次々と延期や中止となり、市民生活や市内経済に大きな影響を及ぼす未曾有の災禍に見舞われた1年となりました。

こうした中、平成18年から進めてきた野幌駅周辺における「江別の顔づくり事業」は、

地域の皆さまの多大なるご理解とご協力により、計画どおり完了いたしました。改めて、厚くお礼申し上げます。

人口については、令和元年に15年ぶりの増加に転じて以降、現在まで増加傾向が続いていることから、12万人復帰が期待されます。

さて、今年は、平成29年3月から進めている生涯活躍のまち構想により、大麻地区に「コルクえべつ」が誕生する予定です。江別の社会資源を活用しながら、年齢や障がいの有無を問わず、多世代が

集い交流することで、生きがいをもって暮らせる「共生のまち」を目指します。

また、1年延期された東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、引き続き、スポーツ合宿誘致やトップアスリートとの交流機会を図ってまいります。

喫緊の課題であります市立病院の立て直しにつきまして、市立病院の役割とあり方を検討する委員会の答申のもと策定した経営再建に向けたロードマップに基づき、経営改善に取り組んでまいります。

今後とも、市の特性や優位性を活かしながら、総合計画で掲げた基本理念である「協働のまちづくり」を進めるとともに、「コロナに負けない健康都市えべつ」として、新しい生活様式に基づき、マスク着用や手洗い、消毒などの感染予防の徹底に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新たな年が市民の皆さまにとって希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

新年のごあいさつ 謹賀新年

新年あけましておめでとう
ございます。

市民の皆さまには、健やかに新年をお迎えのこと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より市議会の活動に対し深いご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。

昨年は、国内外において新型コロナウイルスの感染が拡大し、市民生活全般に暗い影を落としました。当市でも多くの行事や事業を中止せざるを得ず、厳しい環境におかれた年でありました。

市議会においても、「市民と議会の集い」の中止や議会傍聴の自粛をお願いするなど、市民の皆さまにご不便をおかけする結果となったことは誠に残念に思います。

そのような中でも、議会としての役割を果たすべく議事運営などを進めてまいりました。新型コロナウイルス対策関連の補正予算案の審議では、定例会に加えて3回の臨時会を開催し、可能な限り日程を短縮するなど、一刻も早く皆さまへの支援策や感染症

対策が実施できるよう対応してまいりました。

今なお、厳しい情勢は続いておりませんが、市中の感染拡大とともに多方面に影響が生じている実情を踏まえ、審議を通じて、市民生活を守るべく政策提言やさまざまな活動を進め、議会としての役割を着実に果たしてまいります。

どうかご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。一方、コロナ禍の中、市民自らが地域を支える動きが活発になっており、ワクチン

開発にも進展がみられるなど、次の時代につながる明るい兆しが見え始めています。

また、本年は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、江別市にゆかりのある選手の活躍も期待されています。

厳しい一年が過ぎ、迎えた新しい年が、市民の皆さまにとって、希望に満ちた幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶といた

令和2年度 江別市政功労者、貢献賞、特別褒賞の受賞者および受賞団体

市への功績をたたえて

市では、永年にわたって江別市の振興と発展に尽力された方や、経済、社会、文化などの興隆に寄与された方の努力と功績をたたえ、表彰を行っています。今年、市政功労者3名のほか、貢献賞受賞者9名、特別褒賞受賞1団体を表彰しました。

〔詳細〕 総務部総務課 ☎ 381-1005

市政功労者

平成20年から令和2年までの12年にわたり教育長を務められ、在任期間中には、全学級への電子黒板の整備などICT教育の充実のほか、学習サポート教員の全小・中学校への配置など、江別市の教育行政の発展に大きく貢献されました。



月田 健二さん (73歳)

平成8年から平成26年まで農業委員会委員を務められ、在任期間中には、農政常任委員会委員長、農業委員会会長を歴任され、農地行政の適正な執行や地域農業の構造改革にあられるなど、市の農業振興に大きく貢献されました。



高橋 茂隆さん (70歳)

平成15年5月市議会議員に初当選以来、4期16年にわたりその任にあられ、その間、生活福祉常任委員長や総務文教常任委員長などの要職を歴任されたほか、都市計画審議会において提言をいただくなど、市勢の進展に尽力されました。



山本 由美子さん (70歳)

江別市貢献賞

平成元年から平成25年までの24年にわたり民生委員・児童委員を務められました。また、地域包括支援センター運営協議会委員などを歴任し、市の民生福祉の向上に大きく貢献されました。



林 榮子さん (82歳)

平成11年から令和元年までの20年にわたり民生委員・児童委員を務められました。また、角山小学校学校運営委員会委員などを歴任し、市の民生福祉の向上に大きく貢献されました。



佐藤 孝二さん (79歳)

平成9年から令和元年までの22年にわたり民生委員・児童委員を務められました。また、女性団体協議会副会長などを歴任し、市の民生福祉の向上に大きく貢献されました。



山崎 雅江さん (77歳)

江別市貢献賞

平成10年から令和元年までの21年にわたり民生委員・児童委員を務められました。また、青少年のための市民会議常任理事などを歴任し、市の民生福祉の向上に大きく貢献されました。



山田 昌次さん (77歳)

昭和63年から令和元年までの31年にわたり民生委員・児童委員、主任児童委員を務められました。また、子ども会育成連絡協議会常任理事などを歴任し、市の民生福祉の向上に大きく貢献されました。



須本 春子さん (73歳)

昭和55年、消防団に入団以来、39年にわたり消防団業務にあられるとともに、野幌分団の分団長、消防団本部の副団長などを歴任し、市の消防活動の伸展に大きく貢献されました。



山保 義明さん (71歳)

昭和58年、消防団に入団以来、36年にわたり消防団業務にあられるとともに、東部分団の分団長などを歴任し、市の消防活動の伸展に大きく貢献されました。



名取 建二さん (71歳)

江別市貢献賞

昭和51年、消防団に入団以来、40年にわたり消防団業務にあられるとともに、東野幌分団の分団長などを歴任し、市の消防活動の伸展に大きく貢献されました。



小林 道夫さん (71歳)

平成19年から令和元年まで商工会議所議員、常議員を務められ、市内経済の発展と活性化に向けて力を注がれるなど、中小企業の経営安定と振興に大きく貢献されました。



村山 隆司さん (75歳)

特別褒章

えべつ北海鳴子まつり実行委員会

平成6年4月1日に設立され、友好都市である高知県土佐市の鳴子を活用した「えべつ北海鳴子まつり」を、その翌年に開催された第1回から数えて25年にわたり実施し、祭り文化の継承と発展に尽力されてきたほか、郷土愛を育むとともに、友好都市との文化交流などにも大きく貢献されています。



医師の一斉退職、経営悪化、病棟閉鎖―
度重なる苦境に立たされてきた、市立病院。
存続をかけて日々奮闘する理由、それは

「江別市民のため」の医療を提供したい

という思いがあるから。

健康で長生きしたい、とは誰もが願っていること。

その願いには健康を守ってくれる病院が不可欠です。

だからこそ、一度考えてみませんか。

私たちにとって必要な医療とは何かを。





特集

再生の道程

江別市 最大の課題を見つめ直す

これまでの経緯

市立病院は、昭和26年の病院開設から、これまで地域の中核的な医療機関として、医療の提供を行ってきました。

しかし、平成18年に救急医療における過剰な負担などを理由に、内科医が一斉に退職し、経営危機に陥りました。

その後、総合内科と専門診療科が連携する新たな診療体制の構築を目指し、経営の立て直しに道筋をつけつつありましたが、平成28年度以降、新専門医制度の導入を契機とする指導医の転出などにより、総合内科医の退職が続き、診療機能が大幅に低下した結果、再び危機的な経営状況となりました。

数字で見る市立病院

平成28年度以降の内科医の相次ぐ退職は、市立病院の経営にどの程度影響を与えたのでしょうか。

この特集では「入院・外来患者数」「診療収益」「累積欠損金」「借金（負債）」の4つの数値に注目し、近年の推移を紹介いたします。

▼入院・外来の患者数、診療収益

内科医の減少により内科系患者が減少しており、それに伴って、全体の患者数も減少しています。患者数が減少すると、その分収益も減少していきます。

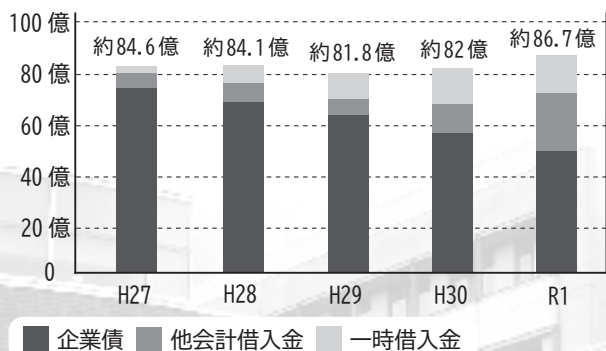
こうした状況から、近年は減収傾向が続き、令和元年度決算では、診療収益（入院・外来の収益）が前年度から約3億3000万円の減収、最終損益は約10億8100万円の赤字となりました。この数値からも病院の収益確保のためには、医師の確保が重要であることがわかります。

▼累積欠損金、借金（負債）

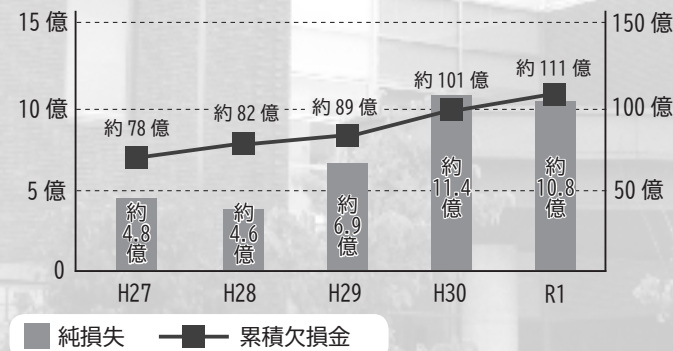
また、減収によって多額の損失が発生し、累積欠損金も増加しています。累積欠損金は借金ではありませんが、財政基盤の強化に向けて、早期の解消が望まれます。

一方、借金（負債）は近年、80億円台で推移しています。企業債は減少しているものの、運転資金確保のため借りた、銀行からの一時借入金や、江別市の一般会計からの借入金などが増加しています。

借金（負債）の推移



純損失・累積欠損金の推移



経営再建に向けたロードマップ
集中改革期間 初年度

令和2年度 市立病院の主な取り組み

✓ 医師招聘を担う専任部門の設置

医師招聘体制を強化するため、専任部門として「顧問」、「経営推進監」を設置しました。

✓ 回復期の患者受け入れ

札幌市内の病院と連携し、容体が重篤な状態である急性期を乗り越え、回復期に入った患者さんを受け入れています。

✓ もの忘れ外来の新設

「直前のことを忘れる」「今日の日付がわからない」といった認知症の症状を専門的に診断する外来を開設しました。

✓ 2交代制の導入

病棟運営を効率化し、看護師の働き方改革を進めるため、病棟の夜間勤務のシフトにおいて2交代制を本格導入し、段階的に移行しています。

✓ 在宅医療（訪問看護）の強化

訪問看護ステーションの人員を7人から8人に増員し、訪問看護の体制強化を図っています。

✓ 院外処方への推進

地域の薬局との連携を進めるため、10月1日から、原則、院内でお薬を処方せず、院外のかかりつけ薬局でお薬を処方していただくようお願いします。

✓ 費用の削減

委託料の仕様や電気契約を見直したほか、材料費の契約手法を変更し、費用を削減しました。

✓ 経営評価委員会の設置

進捗状況の点検や評価を行い、経営再建を着実に推進するため経営評価委員会を設置しました。



経営再建に向けた取り組み

市では、今まで繰り返し返されてきた市立病院の診療体制の後退や経営危機、病院経営が市財政へ及ぼす影響を心配する市民や市議会からの声を受け、令和元年8月に「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」を設置しました。

この委員会では、市民、医療関係者、学識者などが、地域医療において市立病院が担うべき役割や経営安定化について検討を行い、10か月の議論を経て、2つの答申をいただいております。

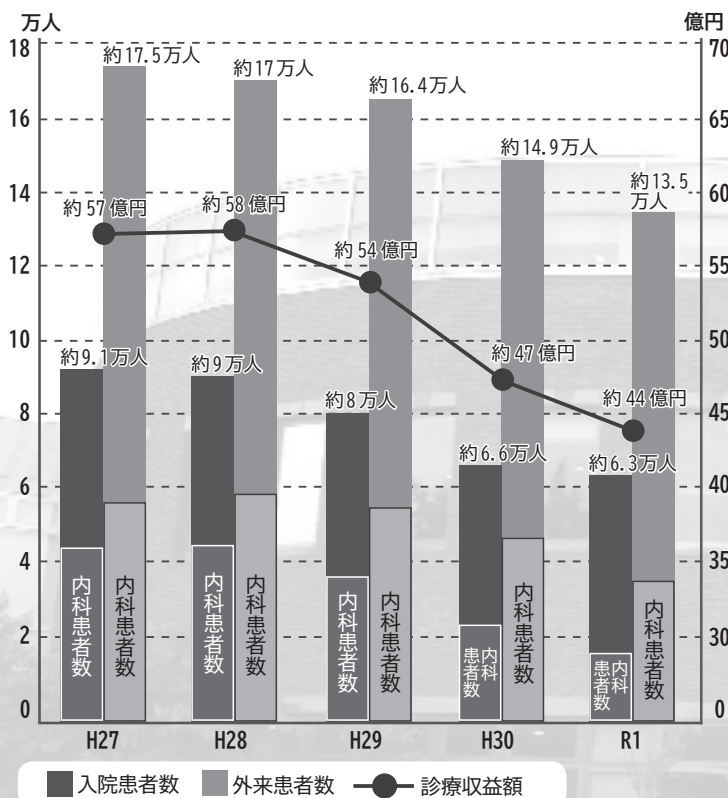
答申では、在宅医療やがん治療の機能強化といった市立病院が担うべ

き医療の重点化や、必要な医療従事者の確保による診療体制の確立、地方独立行政法人への移行といった経営形態のあり方などが提言されました。

この提言を受けて、市立病院では「市立病院の経営再建に向けたロードマップ（主要な取組項目）」を策定しています。

ロードマップでは、経営再建に向けて、医師の招聘や医療従事者の働き方改革などを積極的に進め、令和2年度から4年度までを集中改革期間として、地域医療構想を踏まえた役割の明確化や経営の効率化を実施し、令和5年度での収支均衡を目指しています。

入院・外来患者数、診療収益の推移



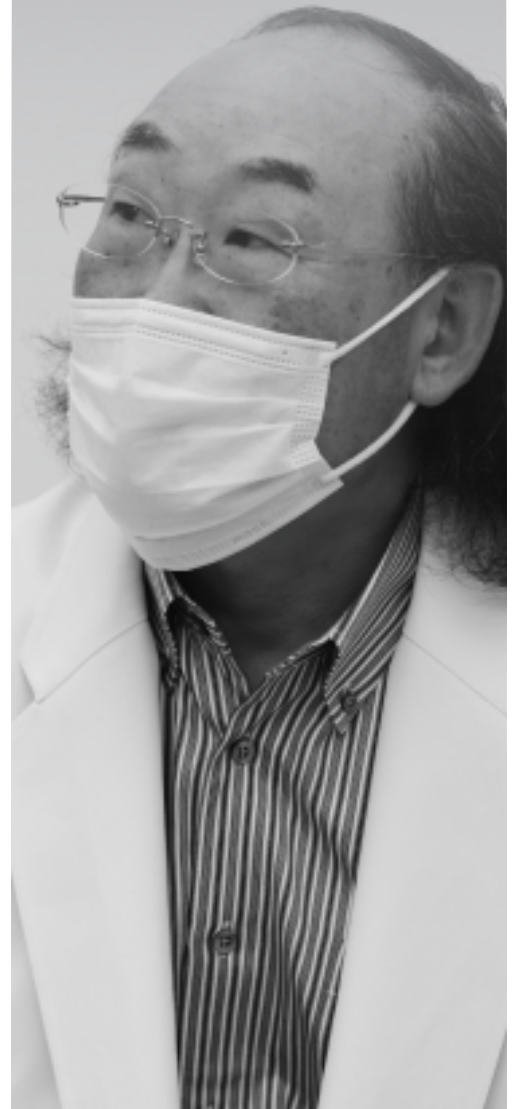
医療関係者はどう見る

interview

笹浪 哲雄 医師

1

ささなみ内科クリニック院長
内科認定医 / 肝臓専門医 / 消化器病専門医 / 江別医師会会長 / 江別市立病院
経営評価委員



地域の医療を支え続けるほしい

地域の医療を支えている

当院は、平成6年に開業してから、江別市立病院に大変お世話になっていきます。

市内において小児科と産婦人科の病院が少ないなか、市立病院の小児科は、とても充実していると感じています。

当院が当番医の時は、何かあれば応援をお願いするなど、市内の小児医療を支える

重要な役割を担っていただいています。

産婦人科は、市内で唯一の分娩施設があり、産後の体調管理にも関わっていると聞いています。

他の診療科においても、当院ではできない手術や入院治療、気になった症状の検査などのため、患者さんを紹介しています。

また、市立病院がなければ、

市外の病院など、遠方の病院を紹介することになり、患者さんの負担が大きくなるのではないのでしょうか。

患者さんの立場からすれば、市外ではなく、身近に信頼できる医師がいたほうが、安心です。

また、医師会会長としては、救急搬送などにより市外で治療を受け、長期療養が必要となった患者さんが市内に戻ってくる時の受け皿になっていたただくことを期待しています。

経営再建に向けて

市立病院では、経営再建に向け職員さんのアイデアで、

もの忘れ外来を新設したり、在宅医療の強化に取り組んでいると聞いています。

今後、高齢化が進んでいくと通院することが困難な高齢者が増えてきますので、こうした需要はますます高くなるでしょう。

こうした取り組みを効果的に機能させるためには、内科医の存在が大きいのですが、現在、市立病院は内科医不足が深刻です。

全国的に医師不足と言われているので、簡単なことではありませんが、医師確保がさらに進むことを望んでいます。

また、厳しいことを申し上げますが、経営再建に向けた

ロードマップの取り組みにあった精神科病床の無床化については、医師会として明確に反対しています。

経営の効率化のみではなく、市立病院の果たすべき大事な役割にも目を向けてもらいたいものです。

市内の民間医療機関の医師は比較的高齢です。将来的には後継者不足で閉院する病院が多くなってくるかもしれません。

そうなった時でも、市民の健康を守るよう民間医療機関と市立病院が連携して市内の医療を支えていくことで、それぞれの役割を果たしていきたいですね。

市民は どう見る

interview

鈴木 笑子 さん

2

市内在住歴3年。がん看護専門看護師としてがん相談をしている。医療の地域連携に興味を持ち、江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会では市民委員として参加した。



市立病院は 身近で、安心できる存在

近くにあることの、安心感

市立病院は市内の基幹病院の一つとして、現在、最も入院病床数が多く、何かあっても市立病院があるという安心感がありますね。

また、市立病院には産婦人科があり、市内で唯一、出産できる病院です。

私の体験談なのですが、主人の仕事の都合で地方に住ん

でいたときは、出産のために1時間半かけて病院に向かったり、子どもの急な発熱があつたときも近場に小児科がなく、週2回の小児科巡回診療だけが頼みの綱でした。

近場で出産ができ、子どもの急な体調不良も対応してくれる病院があるということ

は、女性にとって非常に安心できる要素だと思います。

また、江別はがんの死亡率

が道や全国と比べ、高い傾向にあります。市立病院には、がんの認定看護師が在籍していますので、がんの治療や出前講座にも期待しています。

札幌で手術や放射線治療を受けたあと、住み慣れた江別で治療を続けられるようになると、その人らしい時間を過ごせるようにもなりますし、地域の訪問看護やクリニックと連携されると、ご自宅での看取りまで実現できるようになるのではないかと期待しています。

また、小中高校生にがん教育について出前講座を行っていただけると、親御さんも関心を持つきっかけになり、がん検診受診の意識改革に繋が

るのではないかと期待しています。

身近な存在としての市立病院

市立病院は経営状況や医師の減少が目立っていますが、院長先生や医療従事者の皆さんが一丸となって改革を進めています。

市立病院には、老年看護専門看護師や認知症看護認定看護師が在籍していますし、もの忘れ外来や健診センターの新設といったケアも充実してきています。

また、治療外のことでは、ロビーコンサートやお見舞いメールといった、心がほっとするような取り組みも

実施されています。

現在、新型コロナウイルス感染防止のため、入院されている方への面会が制限されていますが、ホームページにあるお見舞メールという機能を使うと、看護師さんが入院している方へお見舞いの言葉を届けてくれるそうです。

ビデオ通話などが出来たら一番だとは思いますが、入院されている方全員が通信機器に得ての方ばかりとは限らないので、このような取り組みはとても素敵だと思います。

私も市民の一人として、このような小さな取り組みの一つ一つを嬉しく思いますし、これからも応援していきたいと感じます。



市立病院産婦人科 中郷 賢二郎 医師

医療体制、どう変わるべきか

「市

民の皆さんに、自分事として市立病院の

あり方を考えていただくことで、将来像を一緒に描いていけるのではないかと思っています」と話す、江別市立病院の富山光広院長。

市立病院の再生に向け、市立病院の役割や、市に必要な医療体制、今後の市立病院のあり方などについて伺いました。

市立病院の役割

市立病院の役割は、民間病院が担えない診療を引き受け、市民の皆さんに必要な医療を安定的に提供することだと考えています。

経営上の利益だけを考えれ



市立病院院長 富山 光広 医師

日本外科学会専門医・指導医 / 日本消化器外科学会
専門医・指導医 / 消化器がん外科治療認定医

ば収益性の高い診療科に特化したほうがいいのかもありません。

確かにそのようにすると、利益が多くなる可能性はあると思います。

しかし、市民の皆さんに必要なとされる医療を安定的に提供するためには、利益が見込まれなくても、民間の病院が担えない診療は、市立病院に残さなければならないと考えています。

また、介護などに従事している方にとっては、困ったら市立病院に頼めば何とかしてくれる、だから現場の人が頑張れるといった、最後のとりでとしての安心感を与える役割もあると思います。

医師不足の現在

しかしながら、このような役割を果たしていかねなければいけない一方で、平成18年に内科医師の一斉退職、平成28年度以降には、総合内科医の退職が続き、医師不足が発生しました。

このような状況に対応すべく、現在は、医師招聘しよほくに向け、医育大学との関係を再構築することに努め市民の皆さんが必要とする医療の提供ができるよう体制整備を行っています。現状では、内科以外の診療科については、おおむね必要な医師数を確保できていると考えています。

必要な医療の範囲

では、江別市の皆さんには、どのような医療体制が必要なのでしょう。

それは、市立病院を含めた市や市民の皆さんが、自分たちにとって必要な医療についてどのように考えるかだと思っています。

札幌市と同様に、ほぼ全ての疾患に対する医療が提供され、完結できるようにするた

めには、相当な範囲の医療体制の整備が必要になります。

江別市の人口規模でそのような体制を整備しても、経営が成り立つような患者数を確保することはできないので、札幌市全体で提供している医療を江別市内で保有することは困難です。

どの程度の疾患を市内でまかない、どの程度の疾患の治療を札幌に求めるのが重要なポイントになります。

一方、市民の皆さんにもさまざまな意見があります。特に、市立病院に近い江別、野幌地区と、札幌に近い大麻地区では、市立病院についての意見が大きく異なる傾向があります。

また、風邪などもすぐに市立病院で診てほしいという声も強いのですが、厚生労働省では江別市立病院のような規模の病院は、入院が必要となりそうな急性期の治療に特化し、外来は民間の個人病院などに任せろべきだというような方針が示されています。

これらのさまざまな意見で必要な医療の範囲が定まり、市民の皆さんに納得していただける市立病院になっていくのではないかと思います。

「自分事」として市立病院のあり方を考える

特に年齢が若い方は、市外まで行けば多くの病院があるため、病院の選択はたくさんあると感じているかもしれません。

しかし、10年、20年と年齢を重ねていくと、体力が落ち、市外まで通院することが簡単ではなくなってきます。

体が動かない、車の免許を返納したなどの理由から、近所の病院にしか通えない方も

現実には、いらいやいます。

市外に通院すると、身体的にもそうですが、交通費の負担も大きくなります。

このように、市立病院があれば、民間の病院が担えない医療を市内で受けることができるため、その分、個人の負担が減ります。

そうすると、ある程度の治療が受けられる「生活必需品」としての医療が「身近にある」ということが、極めて重要になってきます。

高齢者の方は、今まさに実感していると思いますが、そ



市立病院の感染症対策

1. 健診センターの新設

健診受診者と一般患者の動線を分けるため、12月1日からオープン。

2. 診療費支払機の導入

会計窓口における対面での接触機会が減ります。お帰りの際は、出口の手指消毒剤で消毒していただくことで、感染症対策を徹底しています。

3. 正面玄関での検温

入館場所を正面玄関に限定し、発熱や風邪の諸症状があった方は、専用の診察室にご案内し、一般診療と動線を分けて対応しています。

のことを若い方にも感じてもらいたいと思います。

市民の皆さんに、将来の江別市の医療はどうあるべきなのか、想いを巡らせてほしいです。そして、多くの方に「自分事」として市立病院のあり方を考え、意見を述べていただきたいです。

そうすることで、江別市にとって本当に必要な医療体制を整備した市立病院の将来像を、皆さんと一緒に描いていけるのではないかと思います。



市民の皆さんと一緒に歩める病院、 そんな未来を創っていききたい

市立病院の役割は、民間の医療機関で不足している小児科や産婦人科などの診療科を担うこと、急病など何かあったときにすぐに頼ることができること、住み慣れた場所で長期の治療が受けられることなどがあげられます。

しかし、これらの役割を果たすには、診療体制を確立し、経営を安定させなければなりません。

令和2年度の市立病院の経営は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり厳しい状況ではありますが、もの忘れ外来を新設するなど、職員が一人丸となって「ロードマップ」に基づく改革を進めています。

また、今年度中に、新たに内科医1名の採用が予定されていることなど、再生の兆しも見え始めています。

この特集を読んでもう一度

江別市長 メッセージ動画

市民の皆様へ



江別市長の三好昇です。
市立病院の経営再建の取り組みについて、市民の皆さまに説明する場を設けるべきところですが、コロナ禍が依然として続いているため、動画メッセージにより、市の取り組みをお伝えさせていただきます。

動画は右のQRコードから視聴できます。



動画はこちら

特集への感想をお待ちしています

●郵送・ファクスで送る
〒067-8674 高砂町6
広報広聴課 ☎ 381-1149

●市HPアンケートフォーム
右のQRコードを読み込んでください。



「江別市立病院経営再建計画(案)」 パブリックコメントについて



- ・提出方法：意見記入用紙、または任意の用紙に意見と、住所、氏名を記入し、持参、郵送、ファクス、電子メールで。
- ・提出先：〒067-8585 若草町6番地
江別市立病院経営改善担当 ☎ 384-1321
電子メール hos-keieikaizen@city.ebetsu.lg.jp
- ・提出期限：1月14日(木)17時まで(必着)

た皆さんは、市立病院の役割や提供すべき医療、経営再建の取り組みなどについて、どのように考えましたか。
市立病院では、経営再建計画案をまとめ、市民の皆さんの意見を募集(パブリックコメント)しています。
皆さんの意見が市立病院を変えていきます。
江別市の地域医療の未来を一緒に創っていきましょう。